特集：医学図書館の管理

何が機能を阻害しているか—慈恵医大一—

向 井 茂*

I. 始めに

この主題を与えられたとき、私は問題が大きすぎてとても書けないと思った。書きはじめた現在でさえ、どのようにとりあつかってよいのか全く困りはてている。と言うのは、先ず人の問題につき当るからだ。人の問題となるとほとんど絶望的である。改善される見通しがなかなかたたないのである。

この中で用いる組織とは、図書館サービスと言われている仕事の中で、最も機能的な働きをする活動体のことであるとみてよいであろう。そうすると一定の仕事を推進する上に、最も適切な人員とそれらの人が訓練され、配置されているか否かにかかっていると言えよう。こうしてみると、現在の状態は数の上でも、質の上でも問題がありすぎるように思われる。

II. 組織の現状

組織の現状について述べると、現在正規の職員7名(欠員1名)、パートタイマー1名の8名である。この中で司書の資格を有する者は4名で、他は事務職員としての資格で図書館に勤務している。

組織図を作ってみると、図表Ⅰの如く一応整理部門と運用部門とに分れ、主な仕事の分担はそれぞれ分れるのであるが、実際に行っている仕事の内容は図表Ⅱの如く二重にも三重にも重複せざるを得ないのである。

例えば主任代理で庶務一般の仕事をしているAは、同時に和洋単行書の発注、受入整理

の仕事をし、時には図書の貸出や返却の仕事にも立たなければならない。ある意味では館員全員が貸出係であり、相互貸借の係りになり代わらなければならない実情である。

これを他産業の組織状態と比較してみると、中小企業や町の商店のあり方と同様で、そこには企画や年間の方針を立てる部門もなく、日常業務と利用者の要請に追い廻されている実態があり、近代化以前の未分化の状態が続いていると言ってよいであろう。

III. 何が機能を阻害しているか

私たちの働いている職場で組織の現状を考えてみると、より機能的でありたいとする方向を阻害していると思われるものに次のような要因があると考えられる。

外的な要因	①人手が足りない
	②専門家の入手が困難である
	③専門家の養成機関が不足
	④大学の政策が図書館まで反映しにくい
	⑤業務の上で仕事と責任の範囲が明確でない
内的な要因	⑥システムティックな整備に欠けている
	⑦マネリズム化している
	⑧待遇が悪い

a) 外的な要因について

外的な要因と言ってもすべてが外的な要因によるものであるときめつけることは困難であろう。ここでは外的な要因の方が大きいと言う位の意味に考えて使用した。

①の人手が足りないと言う問題は、一つに

* Shigeru MUKAI

は大学の政策とも関係があり、直接生産部門（医療部門）でない図書館に多くの人員を置かないと言う考えが、経営者の中に依然としてあること、次に募集してもサラリーが安いために仲々集まらないと言う問題とが考えられる。大学の政策の点は徐々に変わってきつつあるが、まだまだ図書館側が考えているものとは相当な開きがある。現に私のところをとっても、3名はどうしても欲しいと思うのだが、人員の増加はまず期待出来ない。

サラリーが安くて集まらないと言う問題は極めて深刻な問題である。一般事務職員についてさえそうであるから、専門職員についてはなおさらである。この2月の初めに辞めた人のあとを埋められないまま、人手不足に一層拍車をかける結果になっている。

次に②の専門家の入手難の問題であるが、サラリーの問題とも関係があり、大学の図書館に勤務するより製薬会社の図書室とか、大企業の調査室のようなところに引き抜かれてしまう。従って慶応の図書館学校なり、上野の図書館養成所を出た人を求めるには、サラリーを引き上げることも大切だが、学生当時からアルバイト等で引き抜くより、入手の方法は困難であると考えられる。

③専門家の養成機関の問題だが、養成機関の数が不足していること、広い意味での生物科学図書館員の養成機関がないことである。この点では2年前から慶応の図書館学校でやられている3年計画の生物科学図書館員養成と研究集会、それに東大でやられている医学図書館初級ゼミナーは極めて有意義なものとして評価されよう。今後も是非継続していただきたいと願っているのは私一人ではあるまい。

b) 内的な要因について

内的な要因になるものに、先ず大学当局の政策が図書館に向けられないと言う点が挙げられるが、これは国の医療行政とも関連があ

ろう。特に建物とか図書の購入費の問題になると大学の政策と切り離して考える訳にはいかない。いつも図書館は財政的に弱い立場に立たされ勝ちであるが、診療部門でない図書館としては運営委員会等を活用し、大学当局に対して強力な発言力を持つよう心掛ける必要がある。

その他幾つかの問題が挙げられるが、中でも図書館職員の待遇が悪いと言う問題と、業務の上で仕事と責任の範囲が明確でないと言うことは日常業務の上に極めて大きな支障をもたらす原因となっているように思われる。

③のシステムティックな整備にかけていると言う点では、むしろ図書館員としての良心から、目録の作成一つをとってみても、不十分な形で一般に出すわけにはいかないと言う考えがあって仲々出版に踏み切れないのと、もう一つは職人気質のようなものがあって、自分の領域を大事にするあまり、他の人に触れられたくないと言う古い面も未だに残っている点が考えられる。

これらの他にも図書館の機能を阻害すると思われる問題はいくちもあるように思われるが、要するに図書館員の仕事は新しい時代に即応したものを要請されているに拘らず、組織の中に古い人間関係がそのままになっていて、機能的に前進することが出来ないからであろう。

Ⅳ. おわりに

組織の現状をどう改善するかと言う問題は、中小企業の町工場や商店が貿易の自由化や企業の近代化にどのように対処するかと言う問題と同様に難かしい問題である。

しかし、このままであってはならないことは確かであり、早急な解決を要する問題であることも事実である。その点で、私はこの問題について、問題点の提起にとどめ、各館の当面する問題の中から論議を掘りおこし、解決への素材にしていただければ十分である。

(第 1 図) 図書館組織図

(注) 人員を○印で囲んでいるのは兼務を意味する。

(第 2 図) 現在の職務分担

氏 名	職 務 内 容	氏 名	職 務 内 容
1. A 氏	1. 総括, 庶務一般 2. 渉外, 他大学, 団体, 書店関係 3. 運営委員会に関する業務 4. 図書館ニュース編集 5. 和洋単行書の受入整理	5. E 氏	2. 和雑誌の整本関係 3. 慈大誌の発送 1. 館の案内 2. 写真複写関係
2. B 氏	1. レファレンス, サービス 2. 洋雑誌の発注, 整理 3. 洋雑誌の製本関係 4. 速報の集金	6. F 氏 (欠員)	1. 貸出業務 2. 貸出図書 of 催促(毎日) 3. 延滞料金の徴収 4. 教授回覧新刊誌の記帳, 配布 5. 速報の配布の発送
3. C 氏	1. 洋雑誌の受入, 整理(記帳まで) 2. 洋雑誌の製本準備 3. 相互貸借	7. G 氏	1. 貸出業務 2. 貸出カード, 返却図書 of 整理 3. 新着誌の展示 4. 慈大誌の発送 (補助)
4. D 氏	1. 和雑誌の受入, 整理	8. H 氏 (パートタイマー)	1. 館内の清掃業務

第8回医学・薬学図書館講習会（神戸医大・1963）

受講者レポート題名一覧

——題名欄の*印は本誌10巻5号に掲載——

氏 名	勤 務 先	リ ポ ー ト 題 名
浅 尾 黎 子	奈良医科大学	運用面から見たレファレンス・サービス
馬 場 俊 明	京都薬科大学	レファレンス・サービスについて
藤 本 理 平	大日本製薬	企業体図書館の Reference Service について*
羽 田 伸	塩野義製薬	図書館員としての Reference Service その在り方
花 輪 和 子	東大薬学部	雑誌名の省略法*
板 橋 瑞 夫	昭和医科大学	参考業務に関連しての感想
神 原 久 恵	阪大・中之島	受講の感想
栗 本 周 江	徳島大医学部	医学図書館における文献相互利用について
宮 岸 朝 子	阪大・中之島	医学・薬学図書館講習会に参加して
村 上 凱 之	東京医科大学	MEDLARS について
小 川 愛 子	塩野義製薬	現場図書室の抄録誌
大 橋 文 江	京都府立医大	レファレンス・サービス（本学図書館の場合）
大 瀬 玲 子	弘前大医学部	Reference Service と小図書館に於ける問題点
大和田 淑 子	武田薬品	第8回医学・薬学図書館講習会を受講して
斎 藤 晃	回生病院	週刊外国医学雑誌の編集形態の特徴とその派生的利用について
斎 藤 弥 子	共立薬科大学	感想
柴 田 正	衛生試験所 大阪支所	感想，並に小公立研究所における Reference Tool の利用に関する考察
下 村 政 光	岩手医科大学	Reference Tool としての J. A. M. A. について
杉 本 宗 明	鳥取大医学部	医学引用文献についてのことなど*
田 辺 文 子	九大医学部	医学図書館員の Reference Service に対する責任
徳 田 精 一	大阪厚生 年金病院	第8回医薬学図書館講習会を受講して（特に一病院の小図書室の職員として）
次 本 節 子	藤沢薬品	第8回医薬学図書館講習会を終えて
山 田 京 子	星薬科大学	第8回医薬学図書館講習会に参加して
安 元 信 一	久留米大医	医学図書館とレファレンス
井 口 美智子	近畿中央病院	Reference Service について
城 間 芳 子	共立薬大	受講感想